

ホテル舞台に集った日本人

南カリフォルニア
南加岐阜県人会100周年 からの風



10



ホテル従業員の仲間たち

1985年の夏の暑い日の午後、麦わら帽子にゴム長靴をはいた青年がホテルの日本料理レストランの入り口に立っていました。年は20歳前後、顔や腕はどす黒く日焼けし、くちびるの周りは白く変色して痛々しい姿でした。

青年は一礼して「日本に帰りたいんです。助けて下さい」とつぶやきました。当時ロサンゼルスのリトル東京町には日本総領事館があって、私はすぐ連絡し日

本へ帰る手配をお願いしました。今、あの青年は46歳を超えているが、あの日、レストランの椅子に座らせて私の出したおにぎりを食べながら、青年は言いました。

アメリカに夢を求めて来たが、お金が底を尽いて浮浪者生活を3カ月して町を歩いていたら日本のホテルがあったので、すぎる気持ちで立ち寄ったと。

私がアメリカに来て20年、かの三浦事件、ロサン

ゼルス暴動、大地震、9・11といろいろな出来事があるたびにホテルは舞台となり日本人の集まる場所となりました。助けを求める人、情報を求める人、日本へ帰りたい人でホテルは何かあるたびにこった返ししました。

当地では日本のホテルは日本文化を紹介できる絶好の場でもあります。華道、お茶、書道、剣道、相撲、民謡、演歌、カラオケ大会、県人会までいろいろなイベントが行われています。今思えば私自身アメリカに来てから日本のことを深く知ることができたような気がしています。

ホテルの仕事は宴会や宿泊される方々のサービスを担当しています。また、ホテルは日系コミュニティの人々の集まる楽しい場所としても人気です。日本から来るお客さまが安全で安心してアメリカで仕事や旅をして無事日本へ帰られることが第一と考えています。

私の田舎の飛騨市近辺には有名な祭りがあり、飛騨古川の起し太鼓、高山祭が有名です。飛騨の祭りの、もてなしの心。が、私を日本酒好きのホテルマンにしたのかもしれない。(文・柚原章)

ゆはら・あきら 1991



年渡米。ロサンゼルス市ホテルニューオータニ二出向社員を経て20

08年退社。現在ロサンゼルス郊外、都ハイブリードホテル副総支配人。飛騨市出身。58歳。